



# 諏訪湖通信58号

令和5年4月20日号 発行:諏訪湖創生ビジョン推進会議



## 諏訪湖創生ビジョン改定(施策の見直し)が決定しました!

令和5年3月23日(木)に第9回諏訪湖創生ビジョン推進会議が開催されました。

今回の推進会議では、諏訪湖創生ビジョン改定(施策の見直し)とワーキンググループの設置について協議が行われました。

日時 令和5年3月23日(木) 13:50~15:00

参加者 65名



諏訪湖創生ビジョン推進会議の様子

諏訪湖創生ビジョンは、平成30年3月に策定され、今年度が5年目にあたることから、改定(施策の見直し)を行うこととし、その作業が進められてきました。

具体的には、推進会議に検討を行うワーキンググループを設置し、議論を重ねるとともに、構成団体の皆様へのアンケートの実施しました。

また、構成団体以外の方々にも参加していただく機会として、11月には諏訪地域の皆様を対象に、知事もオンラインで参加した地域懇談会を開催、翌2月には、天竜川流域の環境団体の皆様と意見交換を行う、地域懇談会を開催しました。

推進会議当日は、構成員の皆様から、今回の改定(施策の見直し)についての意見や考えだけにとどまらず、今の諏訪湖を取り巻く状況や諏訪湖への想いも語っていただきました。

皆さんの熱い思いを受けながら、第9回推進会議において諏訪湖創生ビジョン改定(施策の見直し)(案)が承認されました。

また、改定の経過において多くの意見が出され、知事も重要であるとのべた「浚渫(しゅんせつ)」に関して、改定案では、新たに今後5年間の取組として、利水・生態系浚渫の試行が掲げられていることから、そのためのワーキンググループを設置する提案についても承認されました。今後こちらも活動が開始されます。

改定後のビジョンについては、下記のアドレスからご覧いただけます。改定を機に、心新たに構成員一体となってビジョン実現に取り組んでまいりましょう!

○掲載アドレス

<https://www.pref.nagano.lg.jp/suwachi/suwachi-kikaku/vision/vision.html>



多くの方が参加されました

## 諏訪湖環境改善への寄付金をいただきました

株式会社長野放送様から諏訪湖の環境改善のために役立ててほしいと、県に寄付金をいただきました。

それに伴い、諏訪湖創生ビジョン推進会議に併せて、感謝状の贈呈式を行いました。

今回いただいた寄付金につきましては、諏訪湖創生ビジョン実現に向けて、諏訪湖の環境改善に活用させていただきます!



感謝状を手にする(株)長野放送の太田常務理事様と宮原諏訪地域振興局長

## 諏訪湖創生ビジョン推進会議に図書が寄贈されました!

全国川ごみネットワーク様から、作成した冊子「伝えるのはあなた 未来のために知っておきたい川ごみの話~川ごみポイントブック~」について、諏訪湖創生ビジョン推進会議に寄贈したいとの申し出があり、諏訪湖創生ビジョン推進会議の冒頭、寄贈式を行いました。

全国川ごみネットワークは、川や海のごみ問題、環境問題に取り組む市民団体が集まり2015年に設立されました。諏訪湖創生ビジョン推進会議の構成員でもある下諏訪町諏訪湖浄化推進連絡協議会も参加しています。

寄贈された冊子は、ごみに関してとても分かりやすく記述されています。

今回は20冊いただきましたが、全国川ごみネットワーク様からは、要望があれば追加で配布してくださるとのことです。ご希望がある場合は、事務局までご連絡ください。



寄贈式



寄贈された冊子

## すでに開催されたイベントです

● 4月10日(月) 諏訪湖開き 八劔神社

## 今後に予定しているイベントです

● 5月25日(木) 諏訪湖創生ビジョン推進会議

諏訪湖創生ビジョン推進会議は、「人と生き物が共存し誰もが訪れたい諏訪湖」の実現を目指し取り組みます。  
事務局:諏訪地域振興局企画振興課 TEL:0266-57-2901





# 諏訪湖通信59号



令和5年5月22日号 発行: 諏訪湖創生ビジョン推進会議



## 諏訪湖湖周でサイクリングツアー!! サイクリングマップを配布

岡谷市観光協会では、令和3年10月にJR岡谷駅構内に観光案内所を開設しました。e-バイク(電動アシスト付き自転車)のレンタサイクルをはじめ、諏訪地域の観光情報発信、観光振興に努めています。特に、令和5年度に諏訪湖周サイクリングロードが完成することを見据え、諏訪湖を中心としたサイクルツーリズムを積極的に実施することで、観光客の滞在時間を延ばし、地元の飲食店や観光施設を訪れていただけるようなコース作りに取り組んでいます。



スタート時



店舗立ち寄り時



諏訪大社にて記念撮影

### ～ツアースケジュール予定～

- ①「岡谷の麺職人」ライド  
開催日: 5月28日(日)
- ②「諏訪湖周スイーツ」ライド  
開催日: 7月8日(土)
- ③「山麓巡る信州の紅葉」ライド  
開催日: 10月29日(日)

各ツアー  
定員: 10名  
参加費: 4,000円  
定員に達し次第  
募集終了

【お問合せ先・お申込み】  
岡谷市観光協会  
TEL: 0266-23-4854  
Mail: okakan@po30.lcv.ne.jp



詳細は  
ホームページ  
から!

## 諏訪湖で遊ぶならここ! 「アクティビティベース コグー」がオープン!

こんにちは。アポルタ合同会社代表の井川竜太です。

弊社は平成31年4月から「紅やマリナー」を拠点に諏訪湖カヤックツアーをおこなってきましたが令和4年3月より(株)ホテル紅や様から業務委託を受け、紅やマリナー事業として生まれ変わりました。

すでに2,000人以上のお客様のご来場がありました。今後も「諏訪で遊ぶならまずここに行ってみよう!」と思ってもらえる魅力ある施設を目指します。

☆取扱商品(水上/湖周アクティビティ)

足こぎボート、レンタサイクル、モーターボート、カヤック  
☆営業期間等

3月から11月の9時から17時まで  
(悪天候など特別な事情がない限り休まず営業)  
お問合せ先(電話 0266-52-2325)



「コグー」施設外観

## 第1回 諏訪湖の浚渫課題ワーキンググループが開催されました

令和5年3月に改訂された諏訪湖創生ビジョンの施策のひとつである諏訪湖の利水・生態系浚渫について検討する場として、令和5年4月28日(金)に第1回が開催され、検討メンバー51名(4月28日時点)のうち43名が出席しました。

会議は、諏訪湖や、浚渫に対する知識を深めながら皆で意見や知恵を出し合い、試験的な浚渫に対する意見をまとめ、施策を進めていくことを目的としており、今後、県民も対象とした勉強会なども予定しています。



ワークショップの様子

会議では、沖野会長からこれまでの諏訪湖の水質浄化や浚渫についての経過と現在の課題、諏訪建設事務所から諏訪湖の現状の説明など、議論を進めるうえでの基礎知識が共有されました。その後、ワークショップで、現時点での浚渫に対する考えや、浚渫を実施したい場所、配慮が必要な場所などについてメンバーから意見を出してもらい、諏訪湖の図面に印をつけて視覚的に情報共有を行いました。

5月25日に予定されている第2回では、第1回で共有した情報を踏まえ、さらに意見交換を行ない議論を深めていきます。

諏訪湖創生ビジョン推進会議は、「人と生き物が共存し誰もが訪れたい諏訪湖」の実現を目指し取り組みます。  
事務局: 諏訪地域振興局企画振興課 TEL: 0266-57-2901





# 諏訪湖通信60号



令和5年6月20日号 発行: 諏訪湖創生ビジョン推進会議

## ヒシ刈り、ゴミ拾いを行います! 「諏訪湖クリーンプロジェクト」協賛求む!

アポルタ合同会社では、「未来の美しい諏訪湖を守りたい」という想いから、カヤックやボートを使った水上のゴミ拾い、ヒシ刈り作業を行う【諏訪湖クリーンプロジェクト】という活動を行なっています。

190㎡を1区画として諏訪湖上を区分けし、支援いただいた区画を「ヒシやゴミが無い状態を1年間保つ」という事業です。清掃方法は、5月～10月は和船を用いたヒシ刈りとカヤックを用いたゴミ拾いが主となります。10月以降は湖岸にうち寄せられたゴミの回収を主におこないます。

対象エリアは諏訪湖間欠泉センターから衣之渡川までの全1,034区画です。令和4年度は270区画(51,300㎡)を支援いただきました。清掃期間は支援をいただいた日から1年間ですので、いつでも協賛いただけます。協賛のお申込みは諏訪湖カヤックのホームページ、電話、メール、等で受け付けております。

○ホームページ: <https://www.suwako-kayak.com/>



## 諏訪市博物館(諏訪市中洲171-2) 特別展「諏訪湖-自然・人・未来-」開催中

本展では諏訪湖の成立や変遷にふれながら、漁具、絵画、曾根遺跡の出土品などを展示しています。また、地域で取り組まれている諏訪湖を守り育てる活動も紹介しています。是非ご来場ください。

期間: R5.5.27(土)～R5.7.17(月・祝)  
入館料: 一般310円・小中学生150円  
※諏訪地域在住・在学の小中学生無料  
詳細はホームページをご覧ください。



○ホームページ: <https://suwacitymuseum.jp/>

## 諏訪湖・ハヶ岳を望む 湖上カフェ 「LAKEHOOD OKAYA」オープン

岡谷市湊に位置するレイクフッドオカヤは「棧橋、カフェ、台船」から構成される複合施設です。「遊びの拠点、集いの拠点」がテーマです。諏訪湖越しに眺めるハヶ岳を目の前に、湖上で新たな遊び方や出会い、そして繋がりとの拠点となることを目指します。

6/17にグランドオープンしたカフェでは、コーヒー、ソフトドリンクのほか、スイーツやランチタイム中のランチセットメニューをご用意しております。カフェ店内、展望デッキ、湖上に浮かぶ台船の3種類からお好きなお席で、ちょっとした非日常のひとときをお楽しみください。



店内からの諏訪湖・ハヶ岳の眺め

営業時間: 9:00～16:30(ラストオーダー: 16:00)  
定休日: 不定休

レイクフッドオカヤでは施設のレンタルを行う他、棧橋や台船を使用した湖上イベントなど、お気軽にお問い合わせください。

### 【お問い合わせ先】

LAKEHOOD OKAYA  
MAIL: [info@lakehood.jp](mailto:info@lakehood.jp)



詳細は  
ウェブから!

## 第10回諏訪湖創生ビジョン推進会議 開催

令和5年5月25日(木)に第10回諏訪湖創生ビジョン推進会議が開催されました。

諏訪湖創生ビジョン改定後初めての会となり、コロナ禍を乗り越え、多くの方が参加しました。(65名)



ワークショップの様子

会議では、構成員全員が、諏訪湖の課題に応じ、今年度活動する6つのワーキンググループのテーマに分かれて、一緒に意見交換(ワークショップ)を行いました。

ワーキンググループに参加したことのない構成員も議論に参加することで、これまでにない新しい視点からの意見や提案が出されたほか、諏訪湖の課題に対する構成員の関心が高まったのではないかと感じました。

事務局としても、できるだけ多くの方の意見を反映しながら施策を一緒に考えて実施することが重要と思っています。諏訪湖創生ビジョン推進会議のさらなる活発化に取り組んでまいりますので、積極的な参加をお願いいたします。

諏訪湖創生ビジョン推進会議は、「人と生き物が共存し誰もが訪れたい諏訪湖」の実現を目指し取り組みます。  
事務局: 諏訪地域振興局企画振興課 TEL: 0266-57-2901





# 諏訪湖通信61号

令和5年7月20日号 発行: 諏訪湖創生ビジョン推進会議



## 2年ぶり テナガエビ漁 “解禁” 令和元年に次いで豊漁!!

テナガエビは、長い2本の前脚が特徴的な体長9cmほどの淡水性のエビです。諏訪湖には1924年に霞ヶ浦から持ち込まれたとされています。

エビ漁は諏訪湖の夏の風物詩で、諏訪湖漁業協同組合を通じて川魚店に卸され、地元のホテルや料亭等で提供されています。

このテナガエビはブラックバスやブルーギルによる捕食などにより近年漁獲量が減少傾向で、同漁協では令和3年は漁期の途中で禁漁、令和4年度は全期間禁漁として資源の回復を図ってきました。

今年は6月の1か月間、漁が行われ、208kgの水揚げがありました。藤森組合長にお聞きしたところ「6月2日の大雨で大量のごみが流入して、漁に影響がでないか心配していたが、今年は豊漁で一安心。特に間欠泉センター周辺で多くの水揚げがあった」とのことです。ここ数年の漁獲量が芳しくなかっただけに、組合員の方々はとても喜んでいました。



19名の漁師により水揚げされたテナガエビなど(10.8kg) (6月3日)

テナガエビは7月から8月にかけて産卵期となるため、本年の漁は終了しましたが、ワカサギと並び諏訪湖の貴重な水産資源です。今後も漁と資源確保のバランスを図りながら、テナガエビがたくさん取れることを期待しています。



テナガエビの素揚げ



漁具の「エビかご」

## 諏訪湖の日プロジェクト 協賛企画・協賛広告募集中

諏訪湖創生ビジョン推進会議では「10月1日 諏訪湖の日」にちなみ、諏訪湖に感謝し、守り、活かしていく取組等を募集しています。

詳細はこちら↓(期限: 令和5年7月28日)  
<https://www.pref.nagano.lg.jp/suwachi/suwachi-kikaku/vision/suwakonohi.html>

## 初企画!! 諏訪湖を日本泳法で泳ぐ



初島に向かって隊列を組んで泳ぐメンバー

令和5年7月2日(日)に諏訪湖(石影公園)で開催された県水泳連盟日本泳法委員会の初企画。7人の泳者が諏訪湖に入水し、初島周辺まで一団となって泳ぎ、日頃プールで練習している成果(泳法)を自然の水の中で実践しました。

泳者からは「初めての自然の水で緊張した。ヒシが手足に絡まり泳ぎづらかったが無理に手をかくことなく”ヒシが絡んでは手を戻す”など工夫して泳いだ」と、まさに自然環境に順応しながら泳ぐという日本泳法ならではの感想が聞かれました。委員会によると、今後、年一回は研修を企画したいとのことでした。



(参考)日本泳法とは武芸の一つとして古くから伝えられ、海や川、池などの様々な自然環境に合わせた泳法で通常の泳ぎ以外に、長距離を泳ぐ、身を守りながら泳ぐなどその目的別に編み出されたものでかつては武士のたしなみとして重んじられていたといわれています。

## 3日間で延べ147名参加、手作業によるヒシ刈り

諏訪湖創生ビジョン推進会議では、湖岸域の貧酸素化や枯死による底質環境の悪化、船の運航障害、景観の悪化等の問題を生じさせるヒシの大量繁茂の対策として、官民協働で手作業によるヒシの除去作業を行っています。

令和5年度は7月6日～8日の3日間、諏訪市セーリング協会の皆様のご協力をいただき、初島周辺で刈取作業を行いました。今年度は、4年ぶりに3日間とも一般の方にも募集をかけ、上諏訪中学校、長野日本大学高等学校等の子どもたちを含む延べ147名の皆様のご参加により、計3.5トンのヒシを刈取りました。

最終日の7月8日は、ヒシの刈取に先立ち、水草の学習会と稚エビの放流体験を行いました。諏訪市のゆめプロ(すわ未来創造「子どもゆめプロジェクト」)メンバーの小中学生を中心に多くの子どもたちにもご参加いただきました。



諏訪湖創生ビジョン推進会議は、「人と生き物が共存し誰もが訪れたいくなる諏訪湖」の実現を目指し取り組みます。  
事務局: 諏訪地域振興局企画振興課 TEL: 0266-57-2901





# 諏訪湖通信62号

令和5年8月22日号 発行: 諏訪湖創生ビジョン推進会議



## 諏訪湖サマーナイト花火 開催中! (サマーナイト花火実行委員会)

サマーナイト花火実行委員会(諏訪観光協会、諏訪湖温泉旅館組合)の主催で夏の諏訪湖の夜空を鮮やかに彩るイベントが7月28日(金)から8月27日(日)(※8月15日を除く毎晩)までの30日間開催されています。夜8時半から10分間、諏訪湖畔公園前の初島付近で約500発の花火が上がります。観光客だけでなく地域の方々もいつでも湖畔の芝生からゆっくりと花火を見ることができます。ぜひ夜風の中で音楽に合わせた華やかな花火をお楽しみください。



ゆったりと花火鑑賞

☆イベントに関するお問い合わせはこちら↓  
<https://suwako-hanabi.com/smmr/overview/>  
(諏訪湖花火公式HP)

## 4年ぶり 第75回諏訪湖祭湖上花火大会 4年ぶりの通常開催!



水上スターメイン

令和5年8月15日、夏の夜空を彩る諏訪の風物詩が帰ってきました。響き渡る轟音、体に伝わる振動を感じながら諏訪湖上に打ち上げられる大迫力の花火を見た人たちは拍手喝采で、その感動を表現していました。一時は台風7号の接近により開催が危ぶまれたものの、当日は程よい風で花火の煙が流れ、最高の花火大会日和となりました。

新型コロナウイルス感染症が猛威を振った令和2年以降、花火大会の中止、分散開催を余儀なくされてきましたが、今年はコロナ禍からの復活にふさわしい大会となりました。

## 試行的な浚渫箇所「初島周辺」に決定 (「諏訪湖の浚渫課題」ワーキンググループ)

令和5年8月4日に第4回ワーキンググループが公開で開催され、38名の出席者が諏訪湖畔を視察し、検討メンバーの総意として今年度の利水・生態系保全を目的とした浚渫箇所を「初島周辺」に決定しました。



ワーキンググループの様子

今後は一般県民にも呼びかけ浚渫工事現場の視察等の勉強会を実施予定で、幅広い議論を喚起し来年度の検討につなげていきたいと思ます。

## 第42回 諏訪湖クリーン祭 (下諏訪町諏訪湖浄化推進連絡協議会)



諏訪湖クリーン祭の様子

令和5年8月11日、第42回諏訪湖クリーン祭を開催しました。新型コロナウイルス感染症拡大の影響により通常開催は4年ぶりとなりました。開会前には恒例の湖岸

清掃を行い、水辺に打ち寄せられたごみ(可燃物80kg、不燃物30kg)を回収し、併せて実施した水辺のごみ調査では、プラスチック製品由来の細かなごみが大半を占めていることがわかりました。

イベントでは、団体等が出展したブース展示やクイズラリーなどを通じて諏訪湖の環境保全への想いや理解を深めました。諏訪湖の環境は改善していますが、マイクロプラスチックの問題など、新たな課題も生じています。より良い環境を次代につなげていくためには取組を継続し、多くの方に諏訪湖への関心を高めていただくことが大切だと考えます。

「湖浄連(下諏訪町諏訪湖浄化推進連絡協議会)」では月に一度湖岸清掃を行っています。是非ご参加いただき、諏訪湖に接する機会としていただければと思います。

## 夏休み企画! 諏訪湖の生き物大集合 (県水産試験場 諏訪支場)

令和5年7月26日に諏訪湖の生き物を地域の子供たちにもっと知ってもらおうと夏休みに合わせたイベントが開催され、親子連れなど約40人が参加しました。



プランクトン観察の様子

イベントでは諏訪湖に生息するウナギやウキゴリなど普段間近で見ることがない動植物の水槽展示や顕微鏡を使ったプランクトンの観察、参加者による稚エビの放流も行われました。中でも1m大のウナギの水槽展示は参加者の視線を釘付けにし大好評でした。



稚エビ放流の様子

また、参加者の中には小学校の夏休みの自由研究にするため一生懸命ノートにメモをとる姿も見られました。

諏訪湖創生ビジョン推進会議は、「人と生き物が共存し誰もが訪れたいくなる諏訪湖」の実現を目指し取り組みます。  
事務局: 諏訪地域振興局企画振興課 TEL: 0266-57-2901





# 諏訪湖通信63号

令和5年9月20日号 発行: 諏訪湖創生ビジョン推進会議



## 「謎解きゲーム×ごみ拾いin SUWAKO」(諏訪市)

8月16日(諏訪湖祭湖上花火大会翌日)早朝、諏訪市では初の企画となるごみ拾いイベント「謎解きゲーム×ごみ拾いin SUWAKO」を開催しました。花火大会後の環境美化、天竜川の源流からの海洋プラスチック発生抑制のため、ごみ



(イベント開会式の様子)

拾いはこれまで職員総出で実施してきましたが、より多くの方の参加を促し、楽しくごみ拾いができればと考え、ごみ拾いと謎解きを融合させたイベントを企画しました。ゴミ拾いは謎解きレベルが初級コース、中級コースの2つ選択可能で言葉遊びや漢字の画数が答えになる謎解きをしながら、石彫公園から間欠泉センター一帯で実施しました。観光客への周知も含め諏訪湖温泉旅館協同組合にも協力をいただきながら当日は地域の親子連れや県内外の観光客ら約70名が参加し、可燃ごみや空き缶など約10キロを拾い集めました。参加者からは「謎解きは難しかったけど楽しくごみ拾いができた。晴れやかな気分にもなった」など好評の声も聞かれました。今後も楽しくごみ拾いのできる仕掛けを考えていけたらと思っています。

## 「第4回諏訪湖まるまるゴミ調査」を行いました(諏訪湖創生ビジョン推進会議)

9月9日早朝、172人も地域の企業や住民等が集まり諏訪湖周4会場で諏訪湖に漂着するゴミ調査を行いました。この調査は5人程度で編成されたグループが移動しながらごみを拾い、その種類と数をカウントするものです。



(ゴミ調査の様子)

パッと見では気づかない米粒サイズのごみもカウントします。そして調査結果を踏まえ、ごみの発生抑制のためには何が効果的かなどグループ内で意見交換を行います。この調査を経験した人は、普段見えないようなごみが目に付き、マイクロプラスチックなどの問題まで深く考えることができるようになると思います。通常のごみ拾いより一層の充実感を味わうことができますので、参加されたことがないという方は、ぜひ今後ご参加ください。

## 紙芝居「オオワシと鳥きち爺さん」が完成し諏訪郡市の図書館や保育園などに寄贈しました(諏訪湖クラブ)

平成11年1月に諏訪湖に落ちて衰弱したオオワシを、岡谷市の林正敏さん(諏訪湖クラブ会員)が主になって49日間介護し、放鳥したオオワシ「グル」は、その後平成30年度まで19年間にわたり冬期の諏訪湖にやって来てくれ、地域の人々と温かいふれあいがありました。このふれあいを子供たちにも伝えることができないかとの声があり諏訪湖クラブでは、絵手紙の「福の会」の協力を得て、オオワシ「グル」を題材とした紙芝居の作成を進め、遂に完成することができました。この「紙芝居」は下諏訪町に贈呈(9.12)する他、諏訪郡市の図書館や保育園などに配布しました。



(紙芝居の一場面)

- 紙芝居「オオワシと鳥きち爺さん」読み聞かせ会
  - (1) 日時 令和5年9月30日(土)午前11時～11時30分  
場所 下諏訪町立図書館 2階会議室
  - (2) 日時 令和5年10月14日(土)午前11時～11時30分  
場所 諏訪市図書館 物語・絵本コーナー

## ☆ラジオ番組 数字で知ろう! 諏訪湖のハナシ(エールFM769)

10月1日「諏訪湖の日」に向け、令和5年9月25日から29日までの以下の生放送番組内でランダムに「数字で知ろう! 諏訪湖のハナシ」が紹介されます。是非ご視聴ください!

- ①モーニング7(月-金7時～8時半)
- ②諏訪湖カレイドスコープ(月-木11時半～13時)
- ③5時スタ☆(月火木金 17時～18時半)
- ④ランチタイムラジオSHOW 聴くずらー!(金11時半～13時)
- ⑤HUNG OUT RADIO ふらっと水曜日(水16時～18時半)

諏訪湖創生ビジョン推進会議は、「人と生き物が共存し誰もが訪れたい諏訪湖」の実現を目指し取り組みます。事務局: 諏訪地域振興局企画振興課 TEL: 0266-57-2901

## ～10月1日は「諏訪湖の日」!～ 「諏訪湖の日ガイドブック」を発行



10月1日を「諏訪湖の日」と制定し、概ね9月～10月の諏訪湖に関わる取組や企画を「諏訪湖の日プロジェクト」としてまとめた「諏訪湖の日ガイドブック」を発行しました。今年度は36の協賛企画のお申込みをいただきました。ぜひ多くのイベントにご参加いただき、みんなで諏訪湖を盛り上げましょう!



ガイドブックは「諏訪湖の日」HPからご覧いただけます。

## ～諏訪湖の日プロジェクト～ 10.1「諏訪湖の日フォーラム2023」を開催します



諏訪地域の宝である諏訪湖に感謝し、守り、活かしていくため、10月1日の「諏訪湖の日」を記念して、家族みんなが諏訪湖を楽しく学べるイベントを開催します。“二酸化炭素回収の研究”や“地球を守り、火星を開拓する”などで有名な「村木風海」さんによる講演や食と諏訪湖を絡めたサイエンスショー

など面白い企画が盛りだくさんです。まだまだ定員に余裕ありますので、ぜひご参加ください。(定員300名、参加無料) 参加申込はコチラ

<https://forms.gle/3VSHYipjiELt54aR8>







# 諏訪湖通信64号



令和5年10月20日号 発行: 諏訪湖創生ビジョン推進会議



## 「諏訪湖DEウオーク」PRイベント(諏訪市)を行いました

9月29日早朝、諏訪市、県諏訪地域振興局職員合計12人で諏訪湖畔(ヨットハーバーから原田泰治美術館までの往復約2km)をウォーキングしました。日中は25℃を超える夏日でしたが、朝は18℃と運動するには快適で、諏訪湖の風景とあわせて爽やかな風を感じながらウォーキングすることができました。金子諏訪市長からは「多くの人々の協力があり、諏訪湖はきれいになり親しみやすくなってきている。でももっときれいにすることができる」とさらなる期待を寄せ、宮原諏訪地域振興局長は「諏訪湖を眺めながら気軽に運動できる環境がある諏訪地域の皆さんはうらやましい」と諏訪湖の魅力を改めて実感していました。当たり前のようにある諏訪湖に感謝しつつ、誰もが訪れたい諏訪湖の実現に向けて、諏訪湖を活かし、守る活動を継続する大切さを再認識しました。



(ウォーキングの様子)



(諏訪湖をバックにポーズ)

## 「第32回全国市町村交流レガッタ下諏訪大会」に諏訪湖創生ビジョン関係のブースを出展しました

9月30日～10月1日の2日間標記大会が行われ、下諏訪ローイングパークでは、全国26市町村から111組のクルーがエントリーし、交流を深めながら息を合わせてオールを力強く漕ぎ、白熱したレガッタ競技が行われました。



(スタート直前の様子)

赤砂崎公園多目的広場では物産・飲食ブースも設置され、地域住民、選手も含めて1000人を超える人で諏訪湖畔が賑わいました。諏訪湖創生ビジョン関連のブースも「諏訪湖浄化の取組紹介」として設置し、諏訪湖の水質の歴史、ヒシ繁茂状況とその対策などのパネル展示を行いました。隣では構成員である和限の中村さんがヒシから作った堆肥を配布しており、地域循環の話も関連づけて紹介することができました。幸いにもブース場所が会場内を移動するスマートカートの乗り場横であったことから、待ち時間を利用して多くの来場者の方に関心をもっていただけました。ブースに訪れた方からは「諏訪湖での取組を参考に地元でもやってみたい」「諏訪湖には毎年来ているが、ごみが少なく感心している」などの声もお聞きし、皆さんの日頃の活動が全国から訪れた人々にも伝わっていると感じました。

(ブース出展の様子、写真右側は県企業局所有の燃料電池自動車の展示)



## 「諏訪湖の日フォーラム2023」を開催しました!

10月1日「諏訪湖の日」、諏訪湖畔にあるホテル紅やにて「諏訪湖の日フォーラム2023」を開催しました。令和元年に「諏訪湖の日」を制定し、キックオフイベントを開催して以降、新型コロナウイルス感染拡大の影響もあってこのフォーラムを会場で開催できるのは初めてとなります。当日は会場に130名近くの方にご来場いただき、ライブ配信視聴者数とあわせて150名の参加者が諏訪湖を楽しく学びました。開会のあいさつでは沖野会長から「若い方が諏訪湖をどう見て、どう考えているのか、いろんな立場から諏訪湖を見つめることは大事なこと」との挨拶がありました。



(会場の様子)



(高村さんによる講演)

第1部では、来年4月に開所予定の諏訪湖環境研究センター(仮称)センター長に内定した高村典子さんから「生き物の多様性が湖を元気にする」をテーマに、専門的な話を噛み砕いてご講演いただきました。

人間の経済活動の影響で生き物が絶滅の危機に直面していること、私たちの生活は生物多様性の上に成り立っていることを学びました。

第2部は2人の講師の方にフォーラムを盛り上げていただきました。まずは(一社)炭素回収技術研究機構の村木風海さんから、地球温暖化の影響が諏訪湖にもおよんでいること、今すぐに地球温暖化を止めるための行動をとらないと取り返しがつかないなど、改めて会場の皆さんに脱炭素社会に向けた行動を促すお話がありました。村木さんの夢は二酸化炭素の回収・再利用技術確立させて地球温暖化を止め、二酸化炭素が豊富にある火星で暮らす(火星になる)ことだそうです。



(村木さんによる講演)

続いて「きらきら管理栄養士」のとういんくる星美さんによるサイエンスショー。会場は明るい雰囲気になりました。まずは煙の輪っかを発射する空気砲で、会場みんなの心は驚きにさせられました。さらに、諏訪湖に関する知識を実験やクイズをまじえながら楽しく、面白く、分かりやすく教えていただきました。星美さんは諏訪湖について大変勉強してくださっていて、本当に感心しました。

ご参加いただいた皆様のお陰で楽しいフォーラムにすることができました。本当にありがとうございました。

(左から宮原局長、とういんくる星美さん、沖野会長)



諏訪湖創生ビジョン推進会議は、「人と生き物が共存し誰もが訪れたい諏訪湖」の実現を目指し取り組みます。  
事務局: 諏訪地域振興局企画振興課 TEL: 0266-57-2901





# 諏訪湖通信65号

令和5年11月20日号 発行: 諏訪湖創生ビジョン推進会議



## (株) テンホウ・フーズ 様から 諏訪湖創生に対するご寄附をいただきました

(株)テンホウ・フーズ様から「諏訪湖の日プロジェクト」の企画として、「諏訪湖の日＝10月1日」の諏訪湖周7店舗の売り上げの一部をご寄附いただけることになり、10月24日(火)に贈呈式を行いました。

贈呈式で、(株)テンホウ・フーズ 代表取締役社長 大石 壮太郎様からは、「昔のように夏になれば子供たちが湖に飛び込むなど楽しく遊ぶ様子が日常的に見られる、まさに泳ぎたくなる諏訪湖になってほしい。」とお話があり、諏訪湖に対する熱い思いが伝わってきました。

これに対して、宮原諏訪地域振興局長から感謝状を贈呈させていただきました。

いただいた寄附金は、諏訪湖の環境改善のために役立ててほしいとの想いを大切にしながら、来年度の諏訪湖創生ビジョンに関する取組に活用させていただく予定です。



(感謝状を手にする大石社長(左)と宮原諏訪地域振興局長(右))

## 諏訪地区森林(もり)づくりの集いを開催しました (諏訪地域振興局林務課)

森林への関わりや利用を一層推進し、森林の育成の大切さを広く普及することを目的に、10月14日(土)、下諏訪町のいずみ湖に隣接する下諏訪町有林において、令和5年度諏訪地区森林づくりの集いを開催しました。雨が心配されましたが、集いを行った午前中には晴れ間も見え、穏やかな陽気の中で実施することができました。



(式典の様子)

式典・枝打ちの方法の説明を聞いた後、各自ヘルメットを着用し、腰にノコギリを下げて林内に入り枝打ちを行いました。それぞれのペースで、心地よい汗をかきながらの充実した作業となりました。

森林はこの地域の多様な生態系を支えるとともに水を貯え、洪水を緩和し、土壌や植物による水質浄化機能を有するなど重要な役割を果たしています。そして森林の恵みは

諏訪湖も含め私たちの暮らしに結びついています。森林に触れる機会があれば皆さんもぜひ参加してみてください!



(参加者による枝打ち作業の様子)

## 雲外蒼天への道～諏訪湖ビューティー大作戦～ (諏訪圏青年会議所 2023年度雲外蒼天委員会)

諏訪圏青年会議所では諏訪湖をテーマに「雲外蒼天への道～諏訪湖ビューティー大作戦～」を第1弾・第2弾の全2回開催しました。このイベントは「コミュニティデザイン」という手法を参考に企画し、地域の課題や問題点、これからの地域発展について地域住民が積極的に参加し、自ら考えることにより、自分たちはどんな行動をしていけばいいのかを考える機会を創出すること、いわゆる住民自らが「地域をデザインする」きっかけづくりを目的としました。

○第1弾 令和5年5月14日 場所: 諏訪湖ハイツ

第1弾では、諏訪湖クラブ会長の沖野外輝夫先生による諏訪湖周の基礎知識や歴史などについてご講演いただきました。また参加者53名が実際に諏訪湖に足を運び、釜口水門、赤砂崎公園、石彫公園の3か所からの解説を聞きながら諏訪湖に対する理解を深めました。現地ではリアルタイムで見つかる問題点や課題について、専門家の意見を交えながら自分達の考えを共有しました。その後のワークショップでも活発な意見交換がなされ、個人では気付かなかった視点の共有や課題解決に向けた取組手法について考えました。



(沖野先生による講演の様子)

第1弾を振り返る中で、諏訪湖の水は水質調査結果を踏まえると”きれいになっている”にもかかわらず、諏訪湖の水に対する嫌悪感を持っている人が多く、現状諏訪湖を活用していく機会があまりないことに着目しました。

○第2弾 令和5年9月24日 場所: 赤砂崎公園

「諏訪湖の水に触れ合い、自ら体験して、知る・感じる」ことを目的に第2弾を開催しました。これからの諏訪湖の利活用を念頭に置き、4つのセクション(ゴミ拾い、諏訪湖の水のろ過、水鉄砲体験、テントサウナ)を用意しました。参加者50名は自分で体験するセクションを選びました。その後、セクション体験談を共有するためみんなで意見交換を行いました。想像ではなく実体験に基づくリアルな感想・意見が多く、中には体験を通して「諏訪湖の水に対するイメージがよくなった」という声も聞かれました。水と触れ合うことで、諏訪湖の新しい発見や、利活用を考えるきっかけになったと思います。

第1弾・第2弾の全2回を通して、実際に調査し、みんなで考え、それをやってみるという行動を起こすことで諏訪湖の利活用に向けた第一歩を踏み出すきっかけづくりができたと感じています。



(参加者が諏訪湖に触れ合う様子)

まだまだ利活用できる諏訪湖を地域のこれからの課題と認識し、少しでも地域のことを新しい視野で考えていくことが重要です。そして活動していく中で地域の問題点や課題をいち早く見抜いていく人材が増えていくことが、諏訪湖のみならずこの諏訪圏が発展していく一助になると思います。

諏訪湖創生ビジョン推進会議は、「人と生き物が共存し誰もが訪れたいくなる諏訪湖」の実現を目指し取り組みます。事務局: 諏訪地域振興局企画振興課 TEL: 0266-57-2901





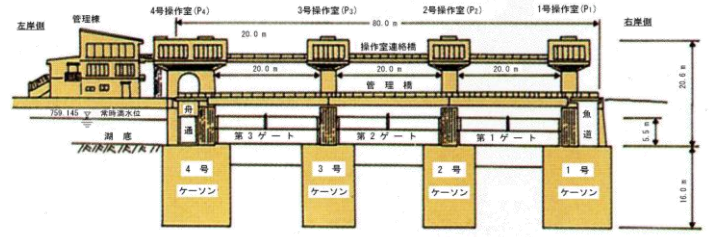
# 諏訪湖通信66号

令和5年12月20日号 発行: 諏訪湖創生ビジョン推進会議



## 釜口水門の更新工事を見学しました

現在の釜口水門(2代目)は昭和63年の運用開始以来、経年劣化による老朽化により、平成21年度から段階的な更新工事・修繕が行われてきました。今回は諏訪湖からの放流量を調節するゲート開閉装置の更新と、ゲートを支える両脇のコンクリート製の柱の耐震化工事が行われています。



釜口水門の概要図

治水の観点から、工事は11月から3月までの湯水期に行われます。第1ゲートをR5年度、第3をR6、第2をR7と、ゲートごとに年度を分けて行い、工事中は残り2つのゲートで放流量を管理するそうです。

現在工事中の部分では、諏訪湖の水を堰き止めて作業をしており、普段は諏訪湖の水で覆われ見えないところ(ゲート敷き部分)を見学することができました。



諏訪湖の水をせき止める仮設ゲート



普段は諏訪湖の水で覆われている箇所

## ヒシ堆肥の贈呈と学習会を行いました

諏訪湖のヒシを刈り取って堆肥化し、地元小中学校等で利用する事業を令和3年度から実施しており、本年度も諏訪管内47の小中学校、養護学校に堆肥を配布しました。令和5年11月21日には、小中学校を代表して、諏訪市立豊田小学校、諏訪市立上諏訪中学校でヒシ堆肥の贈呈式を行いました。児童、生徒の皆様には、学校の畑、花壇等で堆肥を利用する体験を通して、諏訪地域の環境保全や資源の地域循環について学んでいただきたいと思います。また、贈呈式の後には、ヒシの特性や堆肥化によるメリット、諏訪湖に生息する希少なトンボ「メガネサナエ」などについて解説しました。ヒシの実やメガネサナエの羽化殻の実物にも触れていただき、関心を持っていただけたのではないかと思います。



ヒシの堆肥を贈呈

ヒシ堆肥は、諏訪地域における環境イベント等でも配布し、地域住民の皆様にも環境保全や資源の地域循環に関心を持っていただくことができました。

ヒシの刈り取りや利活用、メガネサナエの保全に向けた取組は、令和6年度も実施する予定ですので、引き続き皆様にご協力いただくとともに、諏訪湖の環境改善に向けた地域での活動にもぜひご参加いただければと思います。



ヒシの実などの観察の様子

## 「第9回 川ごみサミットin諏訪湖」が開催されました (全国川ごみネットワーク)

令和5年11月18日(土) 岡谷市諏訪湖ハイツを会場として「第9回 川ごみサミットin諏訪湖」が開催されました。諏訪地域での開催は5年ぶりとなりますが、県内外から約100名の参加があり、河川湖沼のごみに関する発表や意見交換が行われました。今回は2部構成となっており、第1部ではこの諏訪湖での川ごみ対策への取組を中心とした発表が行われました。諏訪湖周の小中学生の皆さんからの発表もあり、それぞれが工夫を凝らし、熱い気持ちの入った発表は諏訪湖の明るい未来を感じさせる内容でした。また、諏訪湖創生ビジョン推進会議の事業として行っている「諏訪湖まるまるゴミ調査」についても、これまでの調査の分析結果を発表し、微細なプラスチックが大半を占めているという諏訪湖の状況を多くの方に伝えることができました。



会場の様子



発表を行った小学生のみんな

第2部は、「川のマイクロプラスチック[見えないごみ]を考える」をテーマとして全体討議を行いました。四日市大学の千葉教授から徐放性肥料、環境ジャーナリストの栗岡氏から人工芝に関する問題提起があり、行政の立場から国土交通省水管理・国土保全局 河川環境課より報告を頂きました。

視認しにくい細かなごみの対策として具体的な取組を行っている方はまだ多くはないと思いますが、どんな影響があるのか、どうすればよいのか等を業界団体の皆様も含めそれぞれの立場で考えるきっかけになったと思います。



栗岡先生による講演

翌日はエクスカージョンの一環として、下諏訪町諏訪湖浄化推進連絡協議会の清掃に参加し、水辺のごみ調査を実施しました。今回のサミットでも話題になりましたが、諏訪湖のまわりには数多くの細かなごみがあります。調査後にグループごとに話し合い、感じたことを発表することで、参加者の皆さんは、諏訪湖が直面しているマイクロプラスチックの問題を改めて認識することができたようです。

諏訪湖のごみは随分と少なくなってきましたが、ごみがなくなったわけではありません。細かくなったごみに気が付いていないだけなのです。今回のサミットや諏訪湖まるまるゴミ調査等を通じて、このことに気が付き、取り組みにつなげていただくと、より良い水辺の環境をつくる第一歩になると思っています。今後も、皆さんと力を合わせ、諏訪湖から川のごみ、海のごみをなくすための活動を続けていきたいと思います。



諏訪湖と富士山を背景にゴミ調査

諏訪湖創生ビジョン推進会議は、「人と生き物が共存し誰もが訪れたい諏訪湖」の実現を目指し取り組みます。  
事務局: 諏訪地域振興局企画振興課 TEL: 0266-57-2901





# 諏訪湖通信67号

令和6年1月19日号 発行: 諏訪湖創生ビジョン推進会議



## 諏訪湖の案内人(仮称) ワーキンググループ報告

諏訪湖創生ビジョンに基づく「諏訪湖の案内人(仮称)」※育成について、令和3年度から検討してきたところですが、来年度以降の養成講座開講に向け、今年度は諏訪地域で観光ガイドとして活躍している「諏訪湖エリアまちなか観光案内人協議会」の皆さんをオブザーバーに招き、2回のワーキンググループを開催しました。令和3年度にまとめた「諏訪湖の案内人(仮称)」の養成方法の基本的な考え方をもとに、講座の内容や名称について意見交換を行いました。

※諏訪湖の案内人(仮称)とは、諏訪湖の水環境の価値と魅力を地域住民、観光客等に伝え、諏訪湖への関心を高めてくれる人材

名称の議論では、これまでの検討で候補として挙げられた24個の名称案を参考にしながら「対外的にわかりやすいもの」、「案内人として楽しく活動できるもの」、「外国人観光客にも伝わるもの」にすべきなどの意見が出され、最終的に3つの候補(「諏訪湖の案内人」「諏訪湖ガイド」「諏訪湖マイスター」)に絞られました。講座内容については、「諏訪湖の水環境の知識に重きを置きながらも、観光・おもてなしのスキルも習得」、「自然環境や地質・地形的な成り立ちを観光視点で伝えることや天竜川の起点である諏訪湖の水がどのように使われているかを知ることなども学べると面白い」などの意見が出され、カリキュラムは、フィールドワークも含め15コマ程度を想定していくこととなりました。

検討結果をもとに、実施主体となる予定の諏訪湖環境研究センター(仮称)を中心に、来年度詳細を詰め、養成を行っていきます。



ワーキンググループの様子

## メガネサナエのモニタリング調査を実施しています

メガネサナエは、諏訪湖、琵琶湖及び愛知県の一部のみに生息する希少なトンボで、環境省レッドリストでは絶滅危惧Ⅱ類に、長野県版レッドリストでは絶滅危惧ⅠB類に区分されています。

諏訪湖創生ビジョンでは、メガネサナエを生態系改善の指標種としており、毎年モニタリング調査(成虫調査及び羽化殻調査)を行っています。また、専門家や関係者が集まり保全のための手法等について検討を行う会議や、小中学校での啓発等を行い、諏訪湖の生態系改善のための取組を進めています。

※【成虫調査(R元~)】成虫の繁殖活動期に繁殖場所の川沿いで、一定区間を歩きながら目視で出現数をカウントし、その結果を気象条件や確認場所とともに記録しています。

※【羽化殻調査(R2~)】メガネサナエの羽化期にあたる7月中旬~8月上旬に、諏訪湖の棧橋や岸壁で見られたメガネサナエの羽化殻数をカウントします。ウチワヤンマ、オオヤマトンボ、コフキトンボ等、その他のトンボの羽化殻数についても併せて調査しています。



飛翔するメガネサナエ(2023.9.29)



メガネサナエの羽化殻を観察する中学生

## 諏訪湖環境研究センター(仮称) センター長内定者の高村さんが諏訪湖を視察しました

令和6年4月の諏訪湖環境研究センター開所に向け、昨年10月から12月にかけての3日間、センター長内定者である高村典子さんが諏訪湖やその流域の現地視察を行いました。

10月、11月は諏訪湖を中心に、1日目は、諏訪建設事務所職員とともに諏訪湖を1周しながら諏訪湖水辺整備基本計画に基づく各ゾーニング地点を視察し、諏訪湖と地域の関わりについて理解を深めました。

2日目は、水産試験場諏訪支場にて、ワカサギやテナガエビ等諏訪湖の水産資源についての説明を受けるとともに、信州大学諏訪臨湖実験所を訪問し、宮原先生、笠原先生や学生の皆さんの研究についてお聞きし、センター開所後の連携等について意見交換を行いました。

12月の視察では、流域面積が大きい主要河川である上川・宮川集水域において、河川の様子や茅野市、富士見町、原村の農業用水路の整備の様子等を確認し、流域を含めた今後の取組や課題について情報収集を行いました。



現地視察の様子(諏訪湖周)

現地視察の様子(上川)

《諏訪湖環境研究センター(仮称)とは》

諏訪湖をはじめとした県内河川・湖沼の水環境保全に係る県の研究機関。岡谷市にある長野県男女共同参画センターの建物の一部を活用し、令和6年4月開所予定。

## カモ類の生息数調査を実施しました

1月15日(月)、諏訪湖及び周囲の流入河川、天竜川においてカモ類の生息数調査を実施しました。

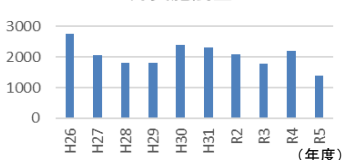
この調査はカモ類の種類別個体数や季節的変化を把握することを目的に、平成5年から年3回、諏訪地域振興局林務課主体で実施しているものです。

調査は林務課職員、県鳥獣保護管理員、諏訪市職員13名が4班に分かれ、スコープや双眼鏡を用いて種類別に数をカウントし、結果1,402羽のカモ類を確認しました。

魚食性鳥類ではカワアイサ158羽(昨年同期505羽)、カワウ123羽(昨年同期83羽)を確認しました。

今回の調査結果は、1月調査としては調査開始以降個体数が最少となりました。暖冬の影響(冬鳥の渡りの変化、諏訪湖が結氷しない等)などが考えられますが、引き続き調査を実施し、個体数の推移を確認してまいります。

個体数の推移(過去10年間) 1月実施調査



調査の様子

諏訪湖創生ビジョン推進会議は、「人と生き物が共存し誰もが訪れたいくなる諏訪湖」の実現を目指し取り組みます。事務局: 諏訪地域振興局企画振興課 TEL: 0266-57-2901





# 諏訪湖通信68号

令和6年2月20日号 発行: 諏訪湖創生ビジョン推進会議



## 諏訪湖における持続可能な漁業振興に係るワーキンググループが開催されました

漁獲量の減少が著しい諏訪湖において、諏訪湖創生ビジョンの目指す姿のひとつ「多種多様な生き物を育む湖」に位置付けられている漁業振興の課題整理と対応策を検討するワーキンググループが令和6年1月11日に開催されました。メンバーには漁業関係者や生態系の専門家も含まれており、様々な立場の方が「漁業振興」にフォーカスをあてたテーマで議論を行います。

今回の会議(第1部)では、まず諏訪湖に生息する在来魚、移殖魚の歴史的な話や近年の漁獲量の変遷など、議論にあたって必要な情報を再確認しました。

現状を認識したうえで、会議の中では「昔と今では諏訪湖の環境は変わっている。現在の魚種に限定せず現環境に適応する新たな魚種を選定することも必要」、「漁業関係者の担い手確保や漁業の活性化を促すため川魚を使った郷土料理の復活を目指す」、「サラリーマンでも兼業できるエビ漁のPR」など、持続可能な漁業振興にむけた意見が出されました。

また議論は主に漁獲量の変遷データに基づくものですが、湖内の水産資源量とリンクしているかは不明であるため、どのような魚がどれだけ生息しているかという湖内の現状把握の必要性についての声も聞かれました。



(ワーキンググループの様子)

第2部では、今年度はじめて予算化された「県民参加型予算※」を使った事業の現場見学を行いました。諏訪湖漁業協同組合の協力を得て湖上にある現場まで移動し、工作物(浮き漁しょう)を目の前に、事業概要の説明を聞くことができました。現場には、魚の産卵場所や隠れ家の創出のため、いかだ状の浮き漁しょうを9基設置。また湖底には八塚漁を模した大石を投入し、エビなどの棲み処にも配慮しています。



(諏訪湖上に設置された浮き漁しょう)

本事業はあくまでも実証実験ということですが、この手法が魚介類の生息環境を修復する一助となり、かつての水生植物が豊かに茂り、多くの魚介類が生息した諏訪湖に近づく足がかりになることを期待しています。

### ※県民参加型予算とは

県予算の構築に当たり、県民の新たな発想や問題意識を取り入れるとともに、県政をより身近なものとしていただくため、事業提案及び事業選定のプロセスに県民が参加する仕組み。本事業は令和4年度に公募により提案・選定され、今年度予算化されたもの。

### ◎イベントのお知らせ

- ・3月6日 第11回 諏訪湖創生ビジョン推進会議 (場所: 下諏訪総合文化センター小ホール)
- ・3月14日 諏訪湖の浚渫(しゅんせつ)勉強会 (遊覧船に乗り、浚渫現場を見学します)

## ヒシの大量繁茂対策に関する学習会、諏訪湖の水草対策ワーキンググループが開催されました

ヒシの繁茂面積は、隔年周期で増減を繰り返しながら減少してきましたが、平成30年度以降は微増が続いています。諏訪湖創生ビジョンでは、ヒシ除去の新たな仕組みづくりを検討し、今後5年間でヒシ除去量倍増を目指すこととしています。そこで、ヒシの除去手法や実施場所等の検討を行うため、令和6年1月22日に第1回ワーキンググループ(以下「WG」)を開催しました。また、WGでの検討に先立ち、ヒシの生態や特性を正しく理解するとともに、三方湖の事例について学ぶため、一般公開で学習会を開催し、東京大学大学院 農学生命科学研究科の吉田丈人教授(三方五湖自然再生協議会 副会長)にご講演いただきました。参加者からは「新たな知識を学ぶことができた」、「先進事例が参考になった」と大変好評で、その後のWGでも活発な議論が行われました。

### ①学習会の概要

- ・ヒシは一年生。種子の発芽は翌年。発芽部分から細菌が入り腐敗するため、ヒシの種子の寿命は長くても2年程度。
- ・同じ湖沼内でも栄養状態などで種子の形状が大きく変わる。日本でよく見られるのはヒシとオニヒシ。諏訪湖はヒシ。トウヒシは九州でよく見られる大型の種。
- ・ヒシの葉を食べるジュンサイハムシが洗濯物を汚す原因に。
- ・三方湖では流入河川の河口部は流れが強く、また、汽水が混ざるエリアは塩分が高いためヒシがほとんど繁茂しない。
- ・三方湖ではヒシの繁茂面積が年によって大きく変動するため、予算の確保や執行が困難になることがある。
- ・三方湖では当初大型の刈取船をレンタルしていたが、ワイヤー刈りを導入して経費を削減できた。ワイヤー刈りは茎が細い春にやるのが重要。
- ・三方湖では自然再生を地域やコミュニティの再生としても位置付け。



(吉田教授による講演の様子)

### ②WGの概要

- ・沖野会長から諏訪湖の概要についての講義、水大気環境課、諏訪建設事務所整備課、諏訪地域振興局環境課からこれまでの取組事例の紹介後、6つのグループに分かれて課題や解決策について議論(ワークショップ)。

### 【主な提案】

- ・ヒシ除去の目的を明確に水生植物全体を管理
- ・種子を落とさない。落ちた種子の分布を広げない
- ・観光税を活用したヒシの除去
- ・学習会で紹介のあった三方湖のゾーニングや春先の刈取を諏訪湖でも導入してはどうか、等 (WSの様子)



諏訪湖創生ビジョン推進会議は、「人と生き物が共存し誰もが訪れたいくなる諏訪湖」の実現を目指し取り組みます。事務局: 諏訪地域振興局企画振興課 TEL: 0266-57-2901





# 諏訪湖通信69号



令和6年3月21日号 発行: 諏訪湖創生ビジョン推進会議

## 学習&交流会イベント 「諏訪湖の魅力伝えよう!」を開催しました

R6年度の開講に向けて準備を進めている「諏訪湖の案内人講座」(仮称)のプレイベントを令和6年2月26日に諏訪湖博物館・赤彦記念館にて開催しました。(参加者40名)

講師に諏訪湖創生ビジョン推進会議会長の沖野先生をお招きして「諏訪湖の水生植物の変遷と将来への課題」についてご講演いただき、またゲストトークとして小口良平さん(自転車冒険家)と宮坂清さん(諏訪湖博物館館長)との「諏訪湖の魅力」をテーマに対談が行われました。

沖野先生には、イベント直前に諏訪湖クラブにより発行された冊子「諏訪湖の水生植物(変遷の軌跡)」を教材にお話いただきました。長年にわたり諏訪湖の水生植物の研究に携わってこられた経験をもとに「水生植物はただそこに生えているわけではなく、存在している意味がある」や「諏訪湖は水があるところだけが諏訪湖ではなく、陸域(雨が降って集水してくるところ)も含めて考えること」の大事さについてわかりやすく伝えていただきました。人が生活する目線だけではなく、諏訪湖に生息する生き物の生活をよく知ったうえで行動していくことが、豊かな諏訪湖を守っていくことにつながるのではと感じました。



(沖野先生の講演の様子)

続いて、小口良平さんと宮坂清さんとの対談では、自らの実体験を踏まえて「魅力の伝え方」についてお話を聞くことができました。具体的には「目に見えている事実だけを伝えるのではなく、その事実の背景にどういったストーリーが隠れているかも含め、参加者自らが考え、行動できるように伝える」、「想像の世界の話は、残された事実をもとに参加者と一緒になってイメージを作り上げていく」など参加者を楽しませることを第一に考え、そのうえで参加者のレベルや出身、趣味などに合わせて柔軟に対応していくことの重要性を教えてくださいました。



(小口さん、宮坂さんの対談)

対談後は諏訪湖博物館の館内を太田学芸員に案内していただき参加者の皆さんは諏訪湖で使われていた漁具や諏訪湖発祥の下駄スケート靴の話など諏訪湖の歴史に触れながら興味深く話を聞いていました。



(博物館内の見学)

イベントの最後には沖野先生、小口良平さん、宮坂清さんと参加者が自由に交流する場を設け、諏訪湖を通して様々な分野で活躍するゲスト3人と、和やかに語り合いました。



(交流会の様子)

参加者からは「諏訪湖をもっと学んで、大勢の人に伝えたい」との感想が聞かれ、来年度以降の「諏訪湖の案内人(仮称)養成講座」開講に向けたプレイベントとして大成功となりました。

## セイコーエプソン(株)様から 諏訪湖創生に対するご寄附をいただきました

セイコーエプソン(株)様から諏訪湖創生ビジョンの事業支援のため「プロジェクター」等のご寄附をいただきました。

ご寄附に対する感謝状贈呈式(R6.3.6)ではセイコーエプソン(株)執行役員 阿部栄一様から「創業者 山崎久夫氏の想い“絶対に諏訪湖を汚してはならない”を原点に自然とともに生きるものづくり」についてご説明があり、諏訪湖創生ビジョンにもご賛同いただきました。

いただいた「プロジェクター」等は来月開所する諏訪湖環境研究センターに設置し、主に諏訪湖に関する研究や子どもたちへの環境教育、また諏訪湖創生ビジョンに基づく活動などに大切に活用させていただきます。



(左: 宮原諏訪地域振興局長、右: 阿部執行役員)

## 第11回 諏訪湖創生ビジョン推進会議 を開催しました

令和6年3月6日(水)に第11回諏訪湖創生ビジョン推進会議を開催(77名参加)し、今年度の取組実績等の情報共有と意見交換を行いました。会議冒頭、沖野会長から「暗中模索状態であったビジョン策定当時と5年経過した今を比較すると、少しずつ成果の芽が出てきた」との総括をいただき、これからはもっと地域の方々にも活動を浸透させ地域住民と一緒に諏訪湖を発展させていく必要があるとの話もいただきました。

会議前半は構成員の方々と実績について意見交換を行い、構成員からは「諏訪湖周での河川のオープン化の動き」の情報共有や「2024年度諏訪湖サイクリングロード全線開通の記念イベントを、1日だけではなく年間とおして盛り上げていきたい」などの発言がありました。

会議後半では傍聴の一般参加者も交え、ビジョン達成に向けた今後の活動のアイデア出しを7グループに分かれて行いました。各グループでは自身の取組を軸に課題や取り組んでみたいことなどについて意見交換が行われました。

“ヒシ繁茂、子どもの環境教育、魅力発信、ごみ問題、浚渫”など多岐にわたる分野で活発な意見が出されていました。来年度も率直な議論を重ねながら、力を合わせて諏訪湖のために取り組んでいきましょう。



(意見交換の様子)

### ☆お知らせ☆

スワコエイトピークストライアスロン大会(開催日 R6. 6. 23)  
ボランティア募集開始!! (申込期限: R6. 4. 19)

詳細はコチラ⇒ <https://suwako8peaks.jp/about/2024volunteer/>

諏訪湖創生ビジョン推進会議は、「人と生き物が共存し誰もが訪れたい諏訪湖」の実現を目指し取り組みます。  
事務局: 諏訪地域振興局企画振興課 TEL: 0266-57-2901